

令和6年度 社会教育委員会協議協議概要  
全体テーマ「若者世代の社会教育への関わりについて」

【第1回会議】5月31日開催

「最近の学生と社会教育活動との関わりの現状」について

(概要)

学生と関わりのある、島袋委員長、内山委員より「最近の学生と社会教育活動の関わりの現状」について、ご報告いただいた。(詳細は以前に送付した会議録と会議資料をご確認ください。)

島袋委員長からの冒頭ご挨拶とご報告(抜粋)

・社会教育の地域活性化に必要なこと

①高齢者層から若年層まで、多様な年齢層が活動に参加していること。

②次世代へのつながりを可能にする人材の育成

・若者の地域参加を促進し、若者の力を活かせるように、地域づくりを支える組織・団体間の連携体制、そして支援方策の整備が望まれる。

・社会教育と社会教育行政、社会教育施設等が地域の人々と同様に若者にとっても身近な学習・活動の拠点になるための支援方策が、より必要となってきた。

・高齢者層から、跡継ぎ世代である中高年層に加え、もうひとつ下の層である若者層が連携し、つながっていくこと、それこそが持続可能(SDGs)な社会教育である。

・公共施設の実施する講座への若者世代の受講者が少ない要因について、若者のニーズにあった内容、申込方法、講座実施時間、講座情報が行き届いていない、学んだことを評価する制度がない、学んだことを生かす方法がない、などを挙げられた。

・京都西山短期大学と市教育委員会の連携協定に基づく事業についてご説明いただいた後、お膳立てされたうえでの学びだけでなく、学生自らの主体的な学びが必要。それが社会教育を意識した学びにつながるとされた。

・社会教育面での課題となっている若年層とのつながりを、どうしたらよいか。いろんな面において、高齢者の私たちと現在の若者との価値観にはギャップがあることを自覚することから、始めるべきではないか。ギャップを少しでもなくすために、若い世代とのコミュニケーションの機会を、少しでも多く持つことが必要。

・私たち自身が、機会あるごとに、若者たちとのコミュニケーションづくりを意識し、行動に移すこと。そして社会教育は、年配者からの上から目線でなく、「お互いが教え、教えられる」関係であることを念頭に、若年層とのつながりを意識することが必要。

・社会教育とは社会教育法によれば「学校教育を除いた組織的な教育」と定義されている。そのため、範囲は大変広くなる。近年の青少年の社会問題として、自然体験の不足や、メディア接触の低年齢化、いじめ、不登校、離職率の高さなどが挙げられるが、このように問題が多様化することで、従来よりも青少年に向けた社会教育は複雑化して、社会教育の独自性というよりは、福祉、労働の部局や、学校教育などと連携して進めることが多くなっている。

・日ごろ大学生と会う中で、現在の若年世代の社会教育に対するニーズをキーワードとしてまとめると、「体験」「コミュニケーション」「役に立ちたい」ではないかとされ、そこに至る青少年社会教育の経緯、歴史をご説明いただいた。

・現在の若年世代の社会教育について考えると、若者自身からの個人のニーズ、要望としては「社会体験」「コミュニケーション」「居場所」「キャリア教育」が挙げられる。そして、社会から若者への要請は「学校、地域支援」や「多世代交流」ではないだろうか。そのどちらをも満たすのがボランティアで、大学生の社会教育ではボランティア活動が大変盛んになっている。今の若者は面と向かうとおとなしい印象であるが、役に立ちたいという思いが強いと思う。

・今の若年世代の社会教育を分類すると、学校や施設での「学習支援ボランティア」、キャンプやスポーツイベント支援などの「野外活動ボランティア」、地域おこしや防災などの「地域ボランティア」が多く見られる。新聞記事によれば、大阪万博のボランティアの応募者は10代と20代が最も多くなっている。20年前の愛知万博ボランティアでは、60代が最多応募だったのとは大きな変化。一方で大学生の就活は年々前倒しになっているという記事もあり、大学生は選択を急かされている感じもする。

・長岡京市や各団体で行われる若年世代の社会教育にも、体験、キャリア、ボランティアといった若者のニーズを取り込みながら、地域での役割を担ってもらうプログラムを組まれると良いのではないか。

## 【第2回会議】11月19日開催

### 青少年団体の活動紹介と交流

#### (概要)

「子供会指導者連絡協議会（どんぐり会）」から20代の3名をゲストに迎え、活動紹介の後、社会教育委員との交流を行った。（詳細は以前に送付した会議録と会議資料をご確認ください。）

#### 「子供会指導者連絡協議会（どんぐり会）」の活動紹介

##### (メンバー)

大学生、高校生、20代の若者中心に構成。どんぐり会のプログラムに参加した子どもが、高校生以降にメンバーになることがほとんど。

##### (活動目的)

野外体験、自然体験などのプログラムを通じ子どもたちが自主自律の精神やリーダーシップを養い、次世代リーダーを育成することを目的として活動。

##### (活動内容)

年間を通じ、市事業であるサマーキャンプのプログラム企画運営や引率などの支援、団体事業のサマーキャンプアフターケア、秋研修、春研修などを実施。

##### (今後の展望)

- ・地域の子供会活動が縮小する中、かつて子供会が担って来られた地域の子ども同士の交流や体験活動を、どんぐり会として提供したい。
- ・地域の団体の事業や催しに、どんぐり会が出向いて子どもへのレクリエーションを提供し、同時にどんぐり会の活動も知ってほしい。
- ・年間を通じた継続的なプログラム（体験、交流）を実施し、継続的に参加いただく子どもを増やすことで、次世代リーダーの育成につなげたい。

#### 社会教育委員との交流その他会議全般でのご意見（抜粋）

##### ・委員より：

（令和6年度社会教育団体の活動状況の説明を受け）各自治会から、社会教育関係の団体がこれだけあって今年度どういう活動をしたか、次はどうしていくのかとかいうことが、自治会の中に回ってこない。私の自治会では、社会教育団体から支援があったとは聞いたことがなかった。つながりをつくっていききたいと思う。自治会の中に関心のある人も必ずいると思う。

##### ・委員より：

（令和6年度社会教育団体の活動状況の説明を受け）果たして横の連携がどれくらいできているのかということが課題ではないのかなと思う。横の連携を密にしたら、社会教員委員のことももっと理解してもらえるだろうし、社会教育委員の仕事としても方向性をきちっとつかめると思っている。

・どんぐり会より：

（活動を続けるモチベーションを聞かれ）子どもの頃からずっと参加していて、今度は自分が提供する側になりたいと思って活動している。活動の経験を通して、他の習い事や学校のイベントなどの中でできるようになったこともあった。

・どんぐり会より：

私たちが小学校の頃は、いろいろ参加できる場所があった。子供会が少なくなってきたり、親の共働きなどが増えてきたりして、子ども達が自然と関わることが少なくなっていると思う。こういう団体があるということで、親も自然に触れさせてあげたい、子ども達も参加して楽しかったということを他の子ども達にも広げていけたらと思っている。ちょっと行ったところで声をかけてもらったりすることも、すごくうれしい。

・どんぐり会より：

指導者の人数は少なくなっている。中学生まで継続して参加した子たちが高校生になるタイミングで手紙を出し、了承を得られた子が入会する。

・どんぐり会より：

子供会とは連携したいとは思っているが、なかなかむずかしい。

6年くらい前、子供会の方からご依頼いただきクリスマス会に参加して、手伝わせていただいた。その後コロナ禍で難しくなってきた、連携できない状態が今も残ってしまっている。

季節のイベントや子供会が企画・イベントをしたい場合につながれたらいいなと考えている。

お手伝いさせていただいて、お時間をいただければ、その時間にできる何かを考えたり、ちょっとした遊びをしたりということを紹介し、私たちの名前を知ってもらえたり、楽しい時間を過ごしてもらえたりしたらと思っている。

前までなら、会長が連絡を取っていた。社会人になってどんぐり会に来なくなってしまうと、そこで連絡が途絶えてしまってお互いに続けていっているのかわからなくなる。お互いに連絡が途絶えてしまってお手伝いの数が減ってしまったのかなと思う。

私たちも、連携を広げていくのが一番かなと思っているが、広げるにも限度がある。横がつながって、どこが子供会として動いているのかとかいうのも知っていただけたらなと思っている。

学校にプリント撒いても、興味のある、毎年この時期あるなって知っている子は、保護者に渡してくれたりするが、そのほかにはなかなか広がらない。毎年キャンプでも参加するのは4年生が比較的多いが、兄弟が参加していたからという理由が多く、新規としてはつながりにくい。やっぱり、もう少し名前を覚えてもらいたい。

・委員より：

情報の発信は難しいと思う。あなたたちは頑張っているが、やはり社会人である私たちが考えていかねばならないなと感じている。今のようにご意見を言ってくれたら、何かいいアイデアが見つかるかもしれない。